



慶應義塾大学

一ノ瀬友博さん



石川県立大学

山下良平さん



農研機構

遠藤和子さん



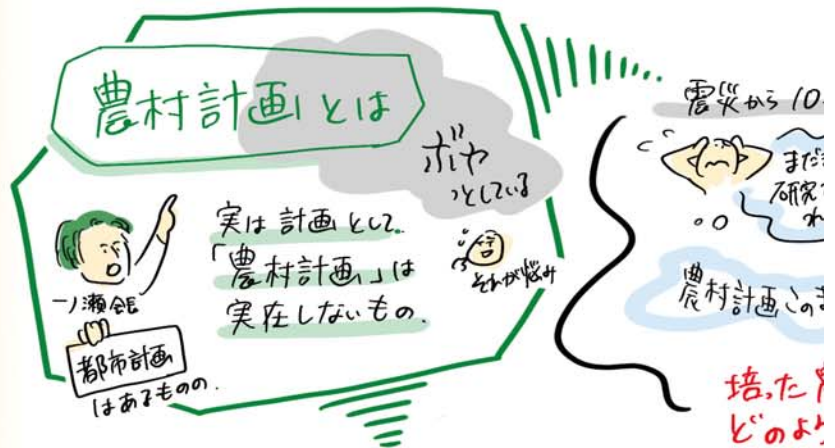
農研機構

栗田英治さん



滋賀県琵琶湖環境  
科学研究センター

法理樹里さん



未来の農村計画へのグラデーションとは？

40年前の目的

農業をどうするべきか？

- ✓ 農村地域の向上 (住人の暮らし、利便性の向上)
- ✓ 農業としての土地評価

戦後の復興や、食糧難を背景に。

Key①

時代の変化とともに、農業のウエイトが減少

農業

多面的機能

20年

空間

自然性

インフラ

“農業の担い手”

戦後、農村を構成していた多くの農業従事者に対して。

収入や生活利便性の向上が目的



この時は都市の移住を目指していた。

当時は農、林、水産の一次産業があった農村だった。

Key③

議題の変化

人口減少

高齢化

“地域

農村の農業を

拡大



技術

グラフィックレコーディング

ありがたうが担当しました!!



思いを可視化して、次に活かす、まかめにしたい!

気持ちと意見に不具合を指摘しました。

一ノ瀬会長が語る

# これからの農村計画の挑戦。

年...  
まだどこまでいいのかわからない...  
ままだいいのかわからない...  
もと役に立つものにした...!  
研究  
地域  
近くあるべきだが...

**農村計画のノウハウを  
実践に活かせばいいのかわ?**

## Key① 農村計画学の基礎も学んでいく。

もともとは  
<応用学>  
だけだった。  
両方必要。事例から普遍性を見出す  
<基礎学>も必要。  
基礎  
ゆとり  
ローコスト  
していいもの  
含めて。  
永遠の悩め...

前より

## 1かどうあるべきか?

人 = コミュニティ  
環境  
農村コミュニティ  
「どっぷり近い」  
イメージ  
前提条件をばりして

## 常に視野を広くもつこと。

視点を広げながら、農村を見よ

中小企業  
後継者課題  
都市  
下町の維持  
移民  
農村  
組み立て直して考える。

## 「の担い手」

住人の中で  
していない人の増加

農業とは異なる生業が  
農村でも当たり前になる

## Key④

農業ではない「農的な生活」へ

時やインフラの基盤整備は進む中で、

若くする人々のライフスタイルは  
どのように変化できるのか?

方法論が明確ではない。  
農村計画学会でも  
まだ取り組んでいない

セットで

農村の新しい  
生まれ変わり方

研究の余地あり

## Key② 積極的に都市側に切り込んでいく。

度々出てくるこの関係...  
都市? 農村?  
境界が  
あいまい...  
農村から都市を見つめる

## Key③ 将来世代に向けて 何を残していくかを考える

「農村が  
どうあるべきか」  
の議論から。  
方法論はある  
何を残すか?  
環境倫理とは...